

窓わくに
ヤモリが顔出し
夏がくる
友部小6年(当時)
大畑 みちる



(令和元年度笠間市文化協会
「子ども俳句大会」入選作品)

支部だより ひがし

第156号

発行日 令和2年6月18日
発行 笠間市社協東支部
編集 広報委員会
印刷 有限会社 テクノプラン



柿橋グラウンド入口の八重桜(撮影 斎藤義範)

令和元年度収支決算と令和2年度収支予算(単位は円)

<収入の部>

科目	R01決算額	R02予算額
会員会費還元金	1,070,000	1,050,000
福祉コミュニティ助成金	50,000	50,000
広報助成金	107,000	105,000
繰越金	234,696	281,224
雑収入	56,696	41,776
合計	1,518,392	1,528,000

<支出の部>

科目	R01決算額	R02予算額
事務費	4,571	20,000
会議費	46,491	50,000
組織強化費	26,600	40,000
慶弔費	5,000	20,000
事業費	189,470	278,000
女性部	499,208	540,000
広報委員会	240,052	240,000
福祉推進研修費	25,776	40,000
地域活動推進費	200,000	220,000
予備費	0	80,000
繰越金	281,224	—
合計	1,518,392	1,528,000

令和2年度東支部代議員会の開催中止

書面での可決多数で承認

令和2年度代議員会は4月19日に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの脅威が一向に衰えず、やむなく中止といたしました。

区長など代議員の皆様には、各種報告書や計画案をお届けし、書面での可否表明をお願いしましたところ、いずれも可決多数の承認をいただき結果となりました。誠にありがとうございました。

支部長 鈴木

令和2年度事業計画

基本方針

地域の誰もが安心して生活できる環境づくりを進めるためには、住民同士の連携や助け合いの心構え、それを支える「顔の見える関係」の構築が不可欠です。こうした人と人との関係を実現するには、これまでになく新しい役割が期待されています。

令和2年度、東支部は4つ

ロック制という地域密着の強みを改めて意識しつつ、きめ細やかな活動を推進します。さらに、従来の延長線上に必ずしも固執しない「少しずつ変わっていくことのできる」支部として、内外のさまざまな声に耳を傾けていきます。

1 地域交流活動の推進

- (1) 友部小学校の交流
- (2) 友部特別支援学校の交流
- (3) 児童の交通安全、防犯活動・通学路立哨活動(登校時)

- (4) 青色防犯パトロール
- (4) 地区敬老会への参加協力
- 2 人づくり、地域づくり事業への支援

- (1) 地域交流事業に対する支援
- (2) 「ふれあいサロン」づくりの推進

- ・東支部第1号となる五平サロンのオープン
- ・他のブロックのサロン立ち上げ検討

3 高齢者の親睦と健康づくり支援

- (1) 輪投げ大会
- (2) グラウンドゴルフ大会

4 子どもの健全育成支援

- (1) 「子ども会事業」への支援
- (2) 子ども会との交流懇談会
- (3) 子ども会への活動費助成

5 女性部の活動

- (1) 高齢者福祉活動
- 4 ブロックごとの①ミニサロン、②対話と食事会
- (2) 一人暮らし高齢者への配食サービス(年2回)
- (3) ふるさとまつりバザー出店
- (4) 女性部研修会

6 広報委員会活動

- (1) 広報紙「支部だよりひがし」発行(年4回)
- (2) 広報委員研修会

7 福祉推進員研修

支部委員・福祉推進員との交流研修

- 8 笠間市防犯活動参加協力
- (1) 市防災連絡協議会の出席
- (2) 年末特別警戒防犯パトロール出発式への参加

9 会員会費の募集

事業推進のために、会員会費を区長、班長、福祉推進員、民生児童委員の皆様にご協力をお願いし募集する。

令和2年度東支部役員 (※は新任)

- 支部長 鈴木義雄
副支部長 小島力男
副支部長 深谷正孝
副支部長 生天目純子
会計 穴戸正夫
会計 丸山晴義
監事 塩幡高男
監事 滝本清通
- 【女性部】
部長(兼任) 生天目純子
副部長 *橋本八重子 (南友部)
副部長 櫻井令子(柿橋)
副部長 宇津保子 (宮前・鴻巣)
副部長 菱沼紀子(五平)
- 広報委員長 内田利一
民生児童委員代表 深澤洋子
(南友部・宮前鴻巣)
民生児童委員代表 川原井幸江 (柿橋・五平)

元気で頑張っています
一木版画・水墨画を楽しむ毎日

宮前2区 宮本 直さん(80歳)



県芸術祭出品作の前にて

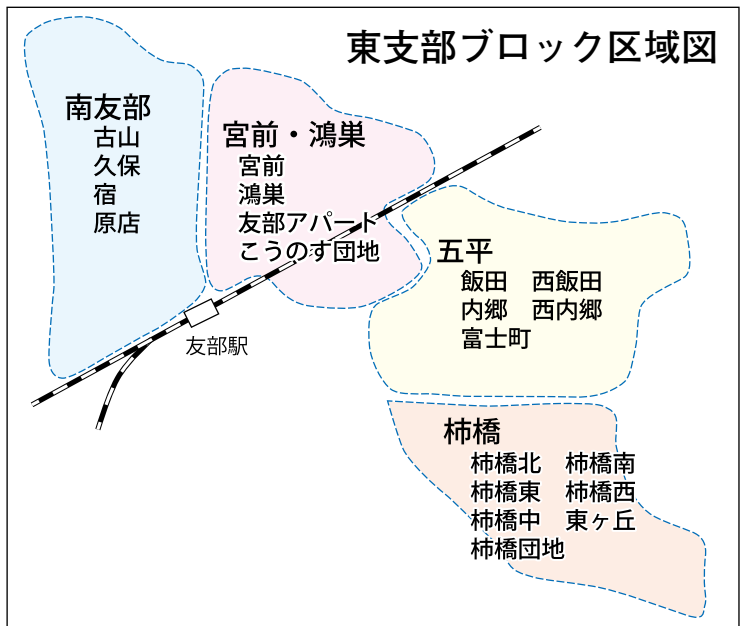
趣味の両輪である「水墨画」もイオンモール水戸内原店の水墨画出展に23回、常盤神社奉納(観梅期間中の行燈用

宮本直(なおし)さんは昭和14年9月筑西市生まれ、50年前の昭和45年に笠間市南友部に転居しました。仕事から転勤が多いので交通の便が良い友部に決めたそうです。

宮本さんの趣味・地域活動は多く、その幅の広さに驚かれます。「木版画」制作はそ

の1つで、個展開催(友部図書館)、県芸術祭や版画クラブ作品展に出品しています。版

東支部は4ブロックから



笠間市社会協議会は笠間地区、友部地区、岩間地区からなり、友部地区には六戸、東、中央、大旭、北川根、大原の6支部があります。私たちが住んでいる東支部は、県立中央病院を中心とした地域で、南友部、宮前・鴻巣、五平、柿橋の4ブロックで成り立っています。

広報紙作成の流れ

広報紙「支部だより・ひがし」は、東支部の活動を会員の皆様にお知らせするもので、年に4回発行しています。各回ごとに広報委員会を2回開いており、1回目は集められた原稿の校正、全体レイアウトと見出しを決定します。その後、原稿は印刷所に運び、イラストなどで装飾されて仮印刷されます。2回目は仮印刷された広報紙の再校正を行い、最終印刷となります。



完成した広報紙



広報紙のレイアウト作成



米原酒店角での立哨

支部役員と女性部とで協力して、小学校の登校時間に合せて通学路の立哨を行っています。場所は南友部、柿橋、宮前鴻巣、五平の各地区計8地点で、毎月第2火曜日に実施しています。

通学路の立哨
横断中



弁当の中身を食器に移すと

2月22日、地域福祉センターともべで、2回目の配食弁当作りが行われました。115食を作り、前回同様に希望者宅にお届けしました。メニューは枝豆入りナゲット、白菜と春雨のサラダ、里芋の照り焼き、鶏ごぼう飯、桜大根の漬物に、お吸い物一袋で、春を感じるお弁当でした。

女性部による配食

この原稿を書いている今は4月。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、大変なことになっています。しかし、いったん外に目を向けると、ついこの間まで梅が咲き桜が咲き、今は、鶯がきれいな声を聞かせています。自然の底力はやっぱり凄い！私たちが負けてはいられない。そして、この広報紙が届けられる頃には、どうぞ明るい光の射す日本でありますように。

編集あとがき



鈴木 龍子